

## 研究② COVID-19の流行下における性暴力被害者 ワンストップ支援センターの状況調査 (安達知子)

### 調査方法

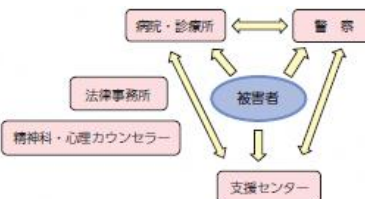
(1) 全国47都道府県に設置されている「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」(以下、ワンストップセンター)51施設に対して、自粛生活、ステイホームなどに伴う性暴力の変化、DV等による性暴力被害の増加の可能性について、相談件数や状況をアンケート調査した。(調査1)

(2) 病院拠点型ワンストップセンターの代表である大阪SACHICOに、2019年と比較した2020年の被害状況をヒアリング調査した。(調査2)

#### 参考:

- 2020年7月:ワンストップセンター(51施設)の形態
- ・病院拠点型 12施設(24%)
  - ・相談センターを中心とした連携型 35施設(69%)
  - ・相談センター拠点型 3施設(6%)

[1.pdf \(npa.go.jp\)](https://www.npa.go.jp/1.pdf)



### 研究② 調査1

#### 2020年1月～8月までの性暴力被害の相談件数、被害内容の変化

	増えた	減った	変わらない	未回答
電話相談の変化	18	12	15	6
メール・LINE相談の変化	7	2	10	32
来所件数の変化	12	12	21	6
強制性交等件数の変化	10	14	25	2
DV件数の変化	7	9	27	8

47都道府県51施設から回答

- ・相談件数は変わらないとの回答も多いが、電話相談は増加、来所件数は増減が半々。
- ・4-5月の相談件数は減少し、6月以降徐々に上昇して例年並みであった。
- ・強制性交等被害は減少した、DV件数も変化なしとの回答が多かった。
- ・直近の被害よりも、過去の被害に対する相談の増加、同じ相談者からの複数回の相談がみられた、本人ではなく家族からの相談がある等の意見も見られた。(相談センター中心型主体)
- ・メール、LINEでの相談は、家族が身近にいてもアクセスしやすいが、28施設はこれができないと回答した。

研究② 調査1

コロナ禍の影響としてどのような加害者が増加したか？

家庭内（夫、パートナー、兄弟、同居の親戚等）	8
友人、知人（同僚、指導者等含む）	6
顔見知り	4
全く知らない人	4
気になる変化はない	24

47都道府県51施設から回答・複数回答・未回答あり

- ・22施設が、加害者に例年とは異なる変化があると回答。8施設が夫やパートナーからの被害増加と回答
- ・身近に加害者がいることにより、相談することが難しくなっていることを危惧したコメントを複数認めた。
- ・SNSを介して被害に遭うケースの増加を指摘するコメントを8施設から認めた。
- ・未成年の被害や性虐待が増加しているとのコメントも少数であるがみられた。

研究② 調査2

大阪SACHICOへのヒアリング調査で、性暴力被害の内容を2020年と2019年で比較した。2020年は2019年と比較して、来所者数(1390 vs.1375)、初診者数(335 vs.337)ともほぼ同数であったが、月により変動があった。

被害者の内容

年	2019年	2020年
強制性交等(他人から)	175	168 →
性虐待	90	97 →
DV	20	30 ↗
その他(不特定多数等)	52	40 ↘
計	337	335

強制性交等(他人から)： 家族以外の知人等からの被害  
 性虐待： 保護者である親族等から子どもへの被害  
 DV： 夫や親しいパートナー等からの被害  
 その他(不特定多数等)： 見知らぬ人等からの被害

家族以外の知人等からの強制性交等の被害の傾向

2019年175人 2020年168人 (重複あり)

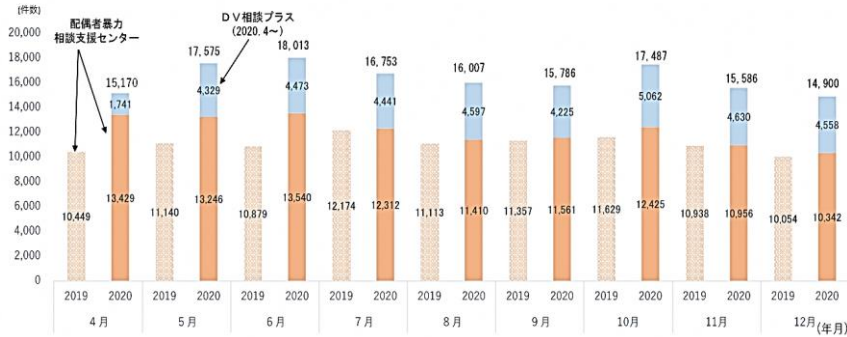
	2019年 (175件)	2020年 (168件)
加害者とSNSを通じて接触	32件 (18.2%)	47件 (28.0%)
加害者の家で性暴力を受けた	15件 (8.6%)	35件 (20.8%)
飲酒	31件 (17.7%)	25件 (14.9%)
性被害による妊娠	4件 (2.3%)	10件 (6.0%)
知的障害等を有している	6件 (3.4%)	12件 (7.1%)

性暴力救済センター・大阪SACHICO 阪南中央病院産婦人科 加藤治子先生より提供

コロナ禍の影響としては、強制性交等被害や性虐待件数に変化はなかったが、DVは少し増加、その他の不特定多数からの被害・性非行・性的搾取は若干減少している。理由として自粛による繁華街での被害等の減少が考えられる。

- ・SNSを通じての被害が多く、SNSを通じて知り合い、ホテルなどではなく加害者の家で性暴力をうけるという被害がみられた。知的障害等を有している被害者も少なくない。
- ・性虐待件数の加害者は父親、養父、義父なども多いが、兄弟からの被害が多かった印象もある。COVID-19流行による自粛生活や仕事を失ったことによる所得低下等の問題もあり、家族に対する暴力や性虐待などが悪化ことが考えられる。

## DV相談件数の推移



(出典) 内閣府男女共同参画局調べ ※全国の配偶者暴力相談支援センターからの相談件数は、2021年1月25日時点の暫定値。

DV: 配偶者からの暴力 (身体的暴行, 心理的攻撃, 経済的圧迫, 性的強要のいずれか)  
2020年度は2019年度の約1.5倍で推移している

## 研究②の結果と考察

- ・ワンストップセンターの性暴力に関する調査では、2019年度と比較して電話相談がやや増加していた。直近の発生ではなく、過去の事例の相談やリポート相談なども目立つことより、新規発生件数はほぼ同じかやや増加した程度と考えられた。
- ・外出先での不特定の相手からの強制性交等被害件数は減少したが、SNSを介して知り合った相手等からの被害が増加した。
- ・内閣府から発表されたDV相談件数は前年と比較し明らかな増加を認めたが、本調査では、DVによる新規性被害件数は大幅な増加は認めなかった。ワンストップセンターは基本的に急性期の性被害を医療支援に結び付ける機能が主体であることから、アクセスする事例が異なることが推測される。
- ・DVによる新規性被害件数に大幅な増加を認めなかった理由としては、家族がそばにいるため電話相談などができない可能性も推察される。被害内容としては、親、義父などからのみならず、兄弟からの事例も報告されており、例年と加害者の傾向が異なった。
- ・メール、LINEでの相談を受け付けていないセンターも多く、相談のアクセス方法の改善は必要である。